

学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第3号】
平成 27 年
6 月 19 日発行
御殿場市教育委員会



「観」はさりげない一言、

さりげないしぐさに表れる

学校教育課長 鳥越 雅幸

六月になり、三ヶ月目を迎えました。特別活動の目玉ともいえる宿泊体験、修学旅行、運動会、体育大会等が終わり、そのプロセスで自己有用感や達成感を味わい、多くの学級で仲間づくりが一層深まっていることと思います。この仲間づくりを基盤に授業の充実を図っていききたいものです。

さて、四月になってから配布された「よりよい自分をつくっていくためにⅡ」に、大切にしたい授業づくりの基本要素として「観」、「子ども観」、

「教育観」、「教材観」、「指導観」が取り上げられています。そこには「観」について次のように書かれています。

「観」とはものの見方や考へ方、ものを見るときの視点（子どもとは・・・）「教育とは・・・」であり、日々の教育実践は、教師の持つ「観」に支えられています。教師同士が協働して、よりよい授業を創造するためには、各教師が持っている子ども観や教育観について話し合い、磨き合って高め合うことが大切です。そうすることで、互いの実践へ

の理解が深まり、組織として自校の教育目標の実現に向けた授業を創造することができ

ます。

一昨年、駿東地区授業研究会で、その先生の生徒の見方が見事に表れた授業を参観しました。中学校二年生の社会科の授業です。駿東地区の授業研であり、五十人を超える参観者が来校することになりました。当然、教室で授業を実施することは困難であり、全校生徒が給食を食べるランチルームで授業公開をすることになりました。

給食を食べたあと、二年生の生徒がそれぞれ椅子と机を運んでいました。授業が始まり、参観者の中をかきわけ入っていくと、だれも座っていない椅子と机があります。私はそのことで衝撃を受けま

した。本学級には、不登校傾向の生徒がいて、当日も欠席してしまいました。だれも座っていない椅子と机は、彼のものです。しばらく学校にきていない生徒の椅子と机が授業の会場に運ばれていたのです。

授業が始まり、小集団になって話し合う場面でのことで

す。生徒たちが椅子と机の向きを変えました。その時、授業者は、だれも座っていない椅子と机の向きを仲間の方にさりげなく変えたのです。この授業者のさりげないしぐさに、生徒一人一人への思い、学級集団への言葉で言い表せないメッセージを感じ取りました。

第二回御殿場市 初任者研修会

平成二十七年五月二十八日
(木)に第二回御殿場市初任者研修会が富士岡小学校と富士岡中学校を会場に開催されました。

鳥越学校教育課長のあいさつでは、「教師として」授業を大事にすること、そのために

授業技術を身に付けること、
についての話がありました。
また、「社会人として」守るべきことや気を付けることについての話もありました。具体的で分かりやすい内容でしたので、初任者の先生方には、スーッとおちるものがあつたことでしょう。

富士岡小学校、瀬戸校長先生からは、『学級経営』の講話がありました。「目の前の子どもたちとその保護者との関わりは、この一年間しかない。だから、子どもたちに与える教師の影響力は大きいんだ。」ということに常に心に留めておくことが大切である。『学級経営』は、オーケストラである。担任が指揮者、楽器が子どもたち。指揮者がどんな音を奏でて、どんな曲に仕上げなのか？学級も担任が、一人一人の子どもたちをどのよう

に育てていくのか、似ているところがある。学校の方針を受け、学校目標を実現するためには、学級経営案が必要なんだ、と話がありました。瀬戸校長先生が作成した貴重な学級経営案の資料は大変参考になったと思います。

授業公開は、高村幹彦先生



三年生の算数「あまりのあるわり算」を参観しました。高

村先生は、子どもの発言を大切にしながら、丁寧に授業を展開していました。また、学習の約束や発表の仕方についても、子どもたちを育ててきた様子が伺えました。子どもたちは、学習課題に対して真剣に向き合い、友達との意見交換や教え合いを活発に行っていました。授業後には、高村先生から初任者の先生方に伝えたいことを話していただきました。

午後は、富士岡中学校に移動しての研修でした。

授業公開は、山本康史先生の三年生の理科「力と運動」斜面の運動」を参観しました。本時の実験に対して、既習の学習内容から個々に仮説を立てました。その後、演示実験を行い、仮説の検証をしたのですが、生徒たちの立てた仮説とは違う結果となり、生徒



たちは驚きの声があがりました。授業はここから、さらに

深まっていきました。山本先生の話で印象的なことは、「問いかけなければ、認識できない！」ということでした。

勝又校長先生からは、『危機管理』の講話がありました。

地震防災・問題行動対応・不審者対応・事故発生対応・校外指導時の引率対応・学校給食危機管理等、様々な危機管理があるが、子どもたちが安全で安心な学校生活が送れるように、組織的に行動することが大切であると話がありました。初任者の先生方は、熱心にメモを取りながら講話を聞き、授業も真剣に参観していました。授業についての質問も積極的にするなど、研修に対して前向きに取り組む姿勢が素晴らしかったです。

両校の先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

【長澤 広志】

教育指導センター訪問記① 若い教師の授業の視点

若い先生方の一途な情熱、ひた向きさ、最高の授業を演出しようとする野心・・・既に退職した私には、眩しく見えます。

若い先生方の思いやパワーは、児童生徒にも感触や体感として伝わっていると思えますが、授業となると、溢れる思いをそのままぶつけていけばいいわけではありません。

児童生徒は、義務教育の9年間、休むことなく膨大な量を学習しなければなりません。教師は、発達年齢に応じた内容を系統的にきちんと整理して、児童生徒が消化しやすいように学習させるのが仕事です。

授業改善の視点は、様々な立場の方々からたくさん提示されていますが、昨年度から訪問させていただいている経験から次の四点を考えていたきたいと思います。

一 「目標を明確にする。」

この一時間で、児童生徒にどのような力をつけるのかを鮮

明にし、直球でど真ん中に投げ込んでください。様々な変化球を駆使して、コーナーに投げ分けるようなことは、ただだ混乱させます。児童生徒が、フルスイングしたくなるボールを投げてください。ですから、「よく理解を深める」というような曖昧な目標でなく、「何をどう理解させるのか」、児童生徒はどこでつまづくのか、つまずきを乗り越えさせる手立てをどうするのか」という視点を持って、一時間の授業を構築して欲しいのです。

二 「学習実感が味わる。」
調べる・考える・体験する・まとめる・習得する・表現する・・・など、児童生徒の活動を精査して、授業に組み込んでください。児童生徒が、今、何に向かって、何をすればいいのかが分かり、学習した実感が味わる授業を教えてください。

児童生徒が困惑するのは、何をすればいいのかわからない、どこに向かっているのかわからない授業です。

三 「個々を鍛える。」
学習集団の七～八割くらいの雰囲気を感じながら授業を

展開するという場面もありますが、授業では児童生徒一人一人が学びを成立させているかどうかという視点が大事です。すべての児童生徒が、学習内容と向き合っているか、持っている力を駆使して取り組んでいるか、最後まで粘り強く闘っているかを見届け、時には追い込み、一人一人を鍛えて欲しいのです。

四 「集団で議論する。」

自分の考えを発表できる児童生徒はかなりいますが、友達同士で議論する授業は、あまり見られません。

議論は、自分の意見を述べるだけでなく、相手の主張を聞き取って、自分の論理を再構築し続けなければ成立しません。多くの人の意見を吟味し、自分の考えと照らし合わせる行為は、最高の学習になります。課題についての議論が活発に行われる授業を目指して欲しいと思います。

まずは、一時間の授業を教師の論理で構築する。そうしたら、その授業をもう一度児童生徒の立場に立って、一時間受け止めてみてください。違う面が見えてくるはずです。

【湯山 伸彦】